

## 令和3年度 事業報告書

### 1. 法人の概要

#### (1) 基本情報

##### ①法人の名称

学校法人 山野学苑

##### ②主たる事務所の住所等

住所：〒151-8539 東京都渋谷区代々木 1-53-1

電話番号：03-3379-0111

FAX 番号：03-3370-0008

ホームページ：<https://www.yamano.jp/>

#### (2) 建学の精神と教育理念

山野学苑は、初代山野愛子校長が提唱した「美道 5 大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）」を基に美容理論の追及、美容に関する知識・技能の教授・研究を通して社会や美容界で広く貢献のできるリーダーを育成するとともに、国際社会で活躍のできる人材の育成を目標とする。

#### (3) 山野学苑の沿革

- |      |         |      |   |
|------|---------|------|---|
| 1934 | （昭和9）年  | 4 月  | 東京日本橋に山野美容講習所設立   |
| 1948 | （昭和23）年 | 9 月  | 国際山野高等美容学院設立認可  |
| 1949 | （昭和24）年 | 12 月 | 財団法人山野高等美容学校設置者変更、設立認可<br>（理事長に山野治一就任、校長に山野愛子就任）<br>美容師養成施設として厚生大臣の指定を受ける |
| 1954 | （昭和29）年 | 12 月 | 学校法人山野高等美容学校設置者変更認可<br>（学校教育法第8条第3項準用の同法第4条の規定）                           |
| 1973 | （昭和48）年 | 12 月 | 学校法人山野学苑に法人名称を変更  |
| 1977 | （昭和52）年 | 2 月  | 学校法人山野学苑山野美容専門学校設置認可  |
| 1991 | （平成3）年  | 12 月 | 山野美容芸術短期大学設置認可（文部大臣）  |
| 1992 | （平成4）年  | 4 月  | 山野美容芸術短期大学開設 美容芸術学科設置   |
| 1995 | （平成7）年  | 8 月  | （山野美容芸術短期大学学長に山野正義就任）   |

- (山野美容専門学校校長に山野愛子ジェーン就任)
- 12月 山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置認可
- 1996 (平成8)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容保健学科開設
- 1997 (平成9)年 10月 山野日本語学校設置認可
- 1998 (平成10)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容保健学科  
(美容師養成施設に指定)  
山野日本語学校開設  
(山野日本語学校校長に山野正義就任)
- 12月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置認可  
(介護福祉士養成施設に指定)
- 1999 (平成11)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科開設
- 2002 (平成14)年 12月 山野医療専門学校認可
- 2003 (平成15)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科  
(美容師養成施設に指定)  
山野医療専門学校開設  
(柔道整復師養成施設に指定)  
(校長に山野正義就任)
- 2004 (平成16)年 4月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻・社会福祉専攻開設
- 2005 (平成17)年 2月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻大学評価・学位授与機構認定
- 2007 (平成19)年 4月 山野美容専門学校校舎 M. YAMANO TOWER 竣工
- 2009 (平成21)年 4月 山野日本語学校大学 進学1年コース設置
- 2010 (平成22)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可  
山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可に伴う美容芸術学科・美容保健学科・美容福祉学科募集停止
- 2011 (平成23)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容芸術学科・美容保健学科・美容福祉学科を改組  
美容総合学科(美容デザイン専攻・総合エステティック専攻・国際美容コミュニケーション専攻)開設
- 2012 (平成24)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科現代美容福祉専攻開設
- 2013 (平成25)年 4月 学校法人山野学苑総長に山野正義就任  
学校法人山野学苑理事長に山野愛子ジェーン就任  
山野美容芸術短期大学学長に山野愛子ジェーン就任

山野日本語学校校長に山野一美ティナ就任

- 2014 (平成26) 年 3 月 山野美容芸術短期大学 日本語別科開設  
 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 現代美容福祉専攻募集停止
- 2015 (平成27) 年 2 月 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より  
 「職業実践専門課程」に認定  
 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 総合エステティック専攻を  
 エステティック専攻に名称変更
- 2017 (平成29) 年 4 月 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より  
 「職業実践専門課程」認定取り消し
- 2018 (平成30) 年 3 月 山野医療専門学校募集休止
- 2020 (令和2) 年 3 月 山野医療専門学校閉校  
 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より  
 「職業実践専門課程」に認定  
 8 月 山野医療専門学校廃止届提出
- 2021 (令和3) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 (美容デザイン専攻・エステ  
 ティック専攻・国際美容コミュニケーション専攻) を学科改組 (専攻  
 課程の廃止) し履修コース制導入  
 美容総合学科 (美容師免許取得コース、インナービューティーコース、  
 グローバルキャリア・ビューティービジネスコース)  
 学科改組に伴い山野美容芸術短期大学 美容総合学科 専攻課程  
 (美容デザイン専攻・エステティック専攻・国際美容コミュニケー  
 ション専攻) 募集停止

(4) 設置する学校

山野美容芸術短期大学	美容総合学科	
	専攻科	芸術専攻
山野美容専門学校	日本語別科	
	美容専門課程	
	美容高等課程	
山野日本語学校	美容通信課程	
	大学進学準備教育	1年コース
	大学進学準備教育	1年半コース
	大学進学	1年コース

## (5) 学校等の学生数の状況

(令和 3年 5月 1日現在)

学校名		入学定員	入学者数 R3. 5. 1	収容定員 R3. 5. 1	現員数 R3. 5. 1	前年度 現員数 R2. 5. 1	新年度 現員 R4. 5. 1	
山野美容 芸術短期 大学	美容総合学科	245	165	490	312	366	350	
	専攻科芸術専攻	40	2	80	2	0	2	
	日本語別科	60	0	60	0	22	0	
山野美容 専門学校	美容専門課程	800	482	1,600	954	1047	912	
	美容高等課程	540	15	1,080	31	35	16	
	美容通信課程	600	115	1,800	837	881	845	
山野 日本語 学校	大学進学 準備教育	1年 コース	100	3	100	3	4	102
	同上	1年半 コース	55	0	110	114	74	2
	大学進学	1年 コース	100	8	100	8	44	45

(注) 山野医療専門学校は、平成 30 年 4 月生徒募集停止、令和 2 年 3 月閉校

(注) 山野日本語学校大学進学準備教育一年半コースは 10 月入学の為、入学者数は R2. 10. 1 現在の人数

(注) 山野美容専門学校通信課程は、4 月・10 月入学の為、上記入学者数は R3. 4. 1 入学者を記載

## (6) 収容定員の充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
山野美容芸術短期大学	1.06	1.06	1.04	0.75	0.64
山野美容専門学校					
美容専門課程	0.74	0.72	0.67	0.66	0.59
美容高等課程	0.05	0.05	0.05	0.04	0.02
美容通信課程	0.37	0.45	0.46	0.49	0.46
山野日本語学校	0.81	0.84	0.84	0.4	0.4

## (7) 役員の概要 理事

理事の定数 9 名

	氏名	就任年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
1	山野愛子ジェーン	平成 7. 8. 8	常勤	(学) 山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・山野美容専門学校校長・(財) 国際美容協会理事長・山野流着装宗家

2	山野栄子ダイアン	平成 25. 5. 28	非常勤	(学)山野学苑学苑長、山野美容商事(株)取締役
3	香川 美津江	平成 12. 5. 26	非常勤	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
4	福田 富雄	平成 27. 9. 15	非常勤	(株)フォーティ・ウインクス代表取締役副社長
5	村田 明彦	平成 27. 8. 3	非常勤	東京ティーモス法律事務所
6	河東 まゆみ	平成 25. 5. 28	非常勤	サロン・ド・エム経営
7	青木 和子	平成 22. 10. 21	常勤	山野美容芸術短期大学名誉教授・山野美容専門学校校長補佐
8	木村 康一	平成 29. 5. 26	常勤	山野美容芸術短期大学名誉教授・山野美容芸術短期大学教授

(注) 寄附行為第 6 条 3 の規程により、理事の定数 1 名を減じている。

(学苑長、短期大学学長が理事を兼ねている) 監事の定数 2 名

	氏 名	就任年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
1	水野 孝平	平成 22. 10. 21	非常勤	税理士
2	林 成高	平成 20. 11. 5	非常勤	(有)ユー美容室経営

#### (8) 評議員の概要

評議員の定数 19 名

	氏 名	就任年月日	主な現職等
1	山野愛子ジェーン	平成 4. 5. 25	(学)山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・山野美容専門学校校長・(財)国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	山野栄子ダイアン	平成 25. 5. 28	(学)山野学苑学苑長、山野美容商事(株)取締役
3	山野一美ティナ	平成 12. 5. 26	山野日本語学校校長・UCLA 教授
4	中川巧スタンリー	平成 14. 3. 29	(学)山野学苑総括
5	香川 美津江	平成 12. 5. 26	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
6	河東 まゆみ	平成 25. 5. 28	サロン・ド・エム経営
7	村田 明彦	平成 27. 8. 3	東京ティーモス法律事務所
8	福田 富雄	平成 27. 9. 15	(株)フォーティ・ウインクス代表取締役副社長
9	青木 和子	平成 21. 8. 31	山野美容芸術短期大学名誉教授・山野美容専門学校校長補佐
10	木村 康一	平成 29. 5. 26	山野美容芸術短期大学名誉教授・山野美容芸術短期大学教授
11	新藤 アイ	平成 7. 3. 1	山野美容芸術短期大学兼任教員・(財)国際美容協会着装教室宗伝
12	高清水 則夫	令和 2. 6. 10	(財)国際美容協会総務部長
13	鈴木 輝康	平成 16. 4. 1	元山野美容専門学校事務局長
14	杉浦 ゆり	平成 21. 8. 31	セントケア(株)・訪問介護
15	高橋 節子	令和 2. 4. 1	(株)コメント・プロパティ代表取締役
16	三宅 政志公	平成 27. 9. 15	元学校法人山野学苑事務局長
17	佐藤 美奈子	平成 27. 9. 15	(学)山野学苑理事長補佐・(財)国際美容協会着装室宗伝
18	多田 正明	平成 27. 9. 15	(学)山野学苑企画課顧問
19	古山 正道	平成 7. 8. 8	(学)山野学苑経理部長

## (9) 教職員の概要

(令和 3 年 5 月 1 日現在)

	本務人数	兼務人数	合計	平均年齢 (本務)	平均年齢 (兼務)	平均年齢 (合計)
山野美容芸術短期大学	53	125	178	49.1	50.7	50.2
山野美容専門学校	73	5	78	46.8	39.4	46.4
山野日本語学校	14	17	31	40.3	41.2	40.8
法人事務局	30	2	32	56.5	63	56.9

## 2. 事業の概要

## 【主な教育・研究の概要】

山野学苑は、昭和 9 年に東京・日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和 29 年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道 5 大原則を教育理念に今年で 88 年の歴史を迎える。

この間、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、世界で活躍のできる人材の育成に努め、今日に至っている。

また、山野学苑は、日本で初めて「美容福祉」を提唱し、更に超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「美齢学・ジェロントロジー」教育を普及・教授し、米国 USC、青山学院大学、大阪大学等と連携をしながら、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指している。

## 《山野美容芸術短期大学》

## 【建学の精神を具現化する学科改組】

令和 3 年度（2021 年度）より専攻を統合(学科改組)し、履修コース制を採用する抜本的な改革を行った。これは今後の社会情勢の急速な変化に対応し、将来的に持続可能な大学運営を行っていくために実施したものである。

専攻統合による学科改組は、平成 30 年 11 月文部科学省の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえたうえで、建学の精神である「美道」をよりアカデミックな観点で再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした、本学の特色を最大限に活かし教育改革を行うものである。「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材」を人材育成像とし、履修コース制とすることにより、これまでの専攻の横断的な学びを実現することと合わせ、新たな関連分野の学びにより、学びの広がりや深度をもった教育体系への再構築を目指すものである。

## 【全般】

令和 3 年度は前年度に続き新型コロナウイルス感染症対策のため、対面授業の完全実施が難しい状況が継続し、授業開講の半分程を遠隔(オンライン)授業とする対応となった。また学生同士が交流するクラブ活動や学苑祭等の行事は対面で行うことはできず、前年度に続き制約された環境下での教育活動となった。

組織運営としては、学習成果・教育成果の最大化、教育の質保証、経営基盤の安定等、内部質保証の推進を目的に教学マネジメント推進体制を図式として整理し、点検・評価の体制とPDCAサイクルを示し共有を図った。

また、このことと合せ大学運営組織の整理を行い、教職員の教職協働の体制整備を進めた。

#### ① 教育

教育にあっては、対面授業と遠隔(オンライン)授業が概ね半々の対応となった。

遠隔(オンライン)授業では、短期大学ならではのきめ細かい対応(教員と学生が双方向で交流し、一方通行にならない)により、学習成果は十分得ることができた。

学習成果は、IR活動による学習時間・学習行動の実態把握、授業アンケートなどにより量的・質的に把握できるが、その結果からも良好であったことが確認できた。

今年度から専攻統合を行い、コース制を採用したことから学習成果カルテ(ルーブリック)を見直し、大幅改正を行った。従来の学習成果カルテは、主観的評価の要素が強かったが、新しいルーブリックでは学生の学習到達度を細かく具体的にランク別に規定し、極力客観的評価の要素を加えた。また、外部の標準化されたアセスメント・テスト(PROG)を引き続き導入した。

PROGの受検は従来在学中2回だったが、令和3年度入学生から3回受検させ、学習成果カルテ(ディプロマポリシーのルーブリック)と併せて利用し、学生への指導をより丁寧なものとして行く。

令和3年度は、3ポリシーの理解度を高めるため、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの文言整理を主旨とした一部改正を行った。

#### ② カリキュラム

専攻統合に伴い、カリキュラム・マップを改定し、ゼミナールにおいて学生が自分自身の振り返りを行えるように見直しを行った。ディプロマポリシーの更なる理解につながるものと期待している。

学生が本学での学びを理解し、学生自身が成長をより実感できるよう、今後も教育の質保証システムへの転換を目指して行く。

令和3年度は、時間割編成においてオンライン形式と対面形式の授業を効果的に編成するため、開講科目の整理を行った。

#### ③ 授業方法

令和3年度においては新型コロナウイルス対応として、遠隔(オンライン)授業と対面授業を併用する形になった。また、学生の受講に関しても家庭の事情等から、オンラインで受講する学生と対面で受講する学生が混在する形で授業を行う所謂ハイブリット形式での授業実施となった。

ハイブリット形式での授業展開方法等に課題は残ったものの、学生の理解度や満足度に関しては、結果として授業評価は昨年度に続き極めて良好であった。

教員がリアルタイムで講義を行い、かつ同時双方向で学生が自由に質問できる環境を構築したことで、学修機会の確保を図ることができた。実技や実習の遠隔(オンライン)授業でスマートフォンを取入れて工夫するなど先進的な取組が評価され、令和4年2月23日付日本経済新聞にも特集記事として紹介された。

授業アンケートは年間2回実施し、授業内容の評価だけでなく、遠隔(オンライン)授業への評価も聴取した。結果は前年度以上に満足度の高いもので、遠隔(オンライン)授業への懸念は解消された。

この他に、本学の理念を実現するための授業スタンスなどを定めたインストラクションスタンダードをFDSD研修会において、非常勤教員も含めた教職員全員に徹底した。

#### ④ 教員評価

教員評価にあつては、評価指標による厳正な評価を行い、優秀な教員への顕彰を行った。

#### ⑤ 入試

オープンキャンパスにおいて、在學生を主役に据えたことで、受験生の関心を高めることができ、昨年度比多くの受験生を集めることができた。

また、在學生自身もリーダーシップの発揮やコミュニケーション能力の大幅向上など、彼らの成長につながる事となった。

加えて、Webサイトのリニューアルにより、教育内容の詳細を伝えることができ、多くの受験生を集めることができた。

令和4年度に向けて、入試選抜方法、WEB出願方法等見直しを行うと共に、学科改組に合わせて、専攻科の入学資格の見直しもを行い、学則の一部改正を行った。

#### ⑥ 学生支援

学生支援としては、ゼミナールを中心に学生への丁寧な指導を徹底した。このことにより、中退・除籍率は従前より改善している。(日本人学生退学率：令和元年度 7.6%⇒2年度 4.6%⇒3年度 4.6%)

退学率については、文部科学省の設置履行状況等調査(AC)の現地調査において、大勢の留學生が中退・除籍していることを踏まえ、学生への指導に注力するよう指導を受け、ゼミ担当教員を中心とした全学体制のもと、丁寧に支援できる体制(指導体制)を構築した。

令和3年度の設置履行状況等調査(AC)においては、これらのことが認められ指摘事項は解消された。

#### ⑦ その他

・平成28年度認証評価の際指摘された事項への対応は以下のとおり

○卒業生が就職した企業へ意見聴取した結果を文書として残し、教育方法・内容等の改善に活用すべき。

➡従来同様、高校への意見聴取を行い、その結果をIR室が取りまとめて自己点検評価改善委員会に報告。その後教授会で審議を行った。

○事業活動収支が支出超過であるので改善することが望まれる。また安定した財務基盤を構築するよう、学校法人全体の中期計画を策定すること。

➡中期計画は令和2年3月に策定済み。収支バランスの改善に取り組んでいるが、結果が出ていない。ただし、今後令和5年に向けて学生定員の確保を目指し、結果的に収支の改善が期待できる。

・高等教育の修学支援新制度については、前年度に引き続き対象機関として認定された。

### 1 各専攻等の内容

#### (1) 美容デザイン専攻(2年生)

美容師の国家資格が取得できる専攻である。幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

令和3年度の授業形態は遠隔と対面受講が混在するハイブリッドであったが、大半を遠隔で実施した前年度の指導法を踏まえ、遠隔と対面各々のメリットを活かした授業を展開することができた。特に美容師国家試験実技課題においては、令和2年度から導入した応用行動分析学の手法を用いた指導を継続して行い技術向上を図った。その結果、本専攻の学習成果の一つである美容



師免許の取得について、入学時から遠隔授業を余儀なくされた学年であるにも拘わらず、美容師国家試験の筆記・実技試験ともに合格率100%を達成することができた。

また、山野学苑が培ってきた美容福祉の継承の一翼を担う「介護職員初任者研修」も継続して実施した。さらに、グローバルな活躍を目指す学生に向け展開している「グローバルスタイリストプログラム」によって、国内外のサロンにおける英語での接客スキルやコミュニケーション力の向上を図った。

## (2) エステティック専攻 (2年生)

幅広い教養と美容知識・技術の習得を通して美と健康に纏わる課題を発見して解決する能力を養うとともに、解剖生理学・皮膚科学・栄養学・化粧品学などを学びながら内面の美しさに関する理解を深め、エステティック産業を中心とする国内外の様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

この中で、体の内側から美しくなるために栄養、健康、ヨガ、オーガニックコスメなどの知識・技術を学ぶ「インナービューティプログラム」、またエステティック国際ライセンスを取得して国際的な活躍を目指す学生に向けた「グローバルビューティシアンプログラム」を展開した。コロナ禍にあって、実技習得に向けた授業の多くが遠隔での実施となったが、本専攻の学習成果の一つである「CIDESCO」の資格認定試験にて、受験者の合格率100%を達成することができた。

## (3) 国際美容コミュニケーション専攻 (2年生)

国際美容コミュニケーション専攻の最後の年度として、卒業する学生達が「美容を通して国際社会に貢献しうる人材になる」ために、卒業年度の1年間で、更なる学びを追究した。

具体的には、語学力の向上として、美容に携わる場面で使用する英語を学び、実践力を強化した。国際研究の授業では、今世界で何が起き、日本と他国との違いや、価値観について学び、他者に伝える機会を設け、プレゼンテーション力の向上に繋げた。アイデア創発として、学内に咲くバラの花を使った商品企画を行い、企画から販売までを体験させ、商品化の流れを学ばせた。そしてグローバルを意識することにおいて、まずは自国の文化を知ることが重要と考え、伝承美として茶道や着付けの科目にて、日本文化への理解が深まる授業を行った。

授業体制としては、昨年度に引き続きコロナ禍であったが、前期では、対面授業と遠隔(オンライン)授業を併用することで、双方の良い点を授業に活かし、教育の質の向上を図った。後期の授業では、対面授業を主とし、対面でのアクティブラーニングを意識した授業を各科目で実施することで、学生同士のコミュニケーション力を更に培うことができた。

## (4) 美容総合学科 (1年生)

改組1年目として、新たなプログラムを展開した。

建学の精神である「美道教育」を土台に、3本の柱となる「美道プロジェクト・ゼミ・キャリア」が学生一人ひとりに寄り添い、成長できるよう学修支援・生活支援・キャリア支援を行ってきた。

また、科目群もバラエティに富み、7つの領域から選択することができ、興味関心の促進を以て、幅広い教養を身につけられる構成とした。

学修支援としてゼミでは、毎週5つのディプロマポリシーを意識した授業の受講の振り返りを行った。具体的にはアクティブラーニングとして、ペアワーク・グループワークを実施し、ディプロマポリシーの何を、どの科目で、どの様なことを修得したかを、互いに確認し、自己肯定・他者肯定を引き出すことができた。またルーブリックを用いて、自己を客観視する機会を創出し

た。学生からは、「毎週振り返るので、出来たこと、今後の課題が明確になった。」「自分で頑張ったと思ったことを、友人に褒めてもらえて、自信に繋がった。」と前向きな声を多く聞くことができた。

キャリア支援も一人ひとりに担当教員が付き、個別指導の強化を図った。

ゼミ・キャリアの活動と共に、美道プロジェクトは、セルフコーチングを中心に学生指導を実施し、将来の自分・今の自分・過去の自分と向き合い、自己肯定を促進し、自分像を構築することを目指した。

#### (5) 専攻科芸術専攻

在籍学生（2名）に対し、本学の目的に則り、精深な専門知識と技術を教授し、美容芸術の広い分野で貢献しうる教育を行った。

### 2 卒業後の進路

#### (1) 美容デザイン専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室	42	50.6
化粧品	4	4.82
アイラッシュ	5	6.02
ブライダル	1	1.20
その他業界	11	13.25
進学	9	10.84
留学	2	2.41
帰国	2	2.41
上記以外進路	7	8.43
計	83	

#### (2) エステティック専攻

区分	人員	占有率 (%)
エステ	12	75.0
化粧品	1	6.25
上記以外進路	3	18.75
計	16	

#### (3) 国際美容コミュニケーション専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
ホテル	3	7.69
化粧品	3	7.69
外食	1	2.56
その他業界	14	35.90
進学	4	10.26
帰国	2	5.13
留学	2	5.13

就職活動中	4	10.26
上記以外	6	15.38
計	39	

### 3 キャリアサポート

#### (1) キャリア支援センター

##### ① 1年生必修科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」との連携

令和3年度新入生より、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」（新カリキュラム）にて全コースの学生が必修で学ぶ授業を実施している。令和3年はコロナ環境下、対面とZOOMのハイブリッド型授業を展開した。授業は「自分を知る」、「社会を知る」、「未来を描く」を目標とし、進路実現に向けて学生自ら行動を起こす力を身につけている。

キャリア支援センターが授業に関わり、前年度のキャリア支援の取り組みについてPDCAを行い実施した成果が以下の通りである。

- ・OB・OG講演・企業講演の内容・回数を増やし、より社会との関わりを意識した授業を展開。先輩の就活体験情報や企業担当者による企業が望む人材像や業界特徴等、多くの活きた情報を直接学生に伝えられた。
- ・キャリア支援センター職員が授業に参加し、学生の学びの環境を充実させることができた。

##### ② 社会人基礎力外部指標（PROG指標）の活用

社会人基礎力を測定するPROGを2年前から導入している。令和3年度より、入学直後、1年生終了時、及び卒業時の3回測定実施する。PROG導入により本学学生の社会人基礎力の特徴及び伸長度合いを可視化し、他大学（私立4年生大学並びに私立短期大学1年生）との比較ができる。このように外部指標により2年間の教育を通じて学生が如何なる成長を遂げたかを明確にできる。

キャリア支援においては、授業内容の構築や、個人面談における個人基礎情報としてデータに基づいた質の高いキャリアサポートが展開できたと判断している。

##### ③ 進学（4大編入）支援の強化

本学学生の進路の幅を広げる活動として、編入学への取り組みを強化した。特に一般編入への取り組みを強化するにあたり、外部編入予備校（中央ゼミナール）と連携を強化し以下を進めた。

- ・編入学相談会を複数回実施
- ・編入基礎講座（編入英語講座2回・小論文講座2回を1セット）を年間計3回実施、
- ・個人面談実施（各編入講座終了後キャリア支援センター及び中央ゼミナールで面談を実施し、個別のサポートを徹底

令和3年度は4大編入希望者7名（一般編入・指定校推薦編入）全員が合格を果たした。

#### (2) インターンシップ

令和3年度はコロナ蔓延により本学主催のオンラインインターンシップを実施した。

具体的な取り組み内容を以下に示す。

##### ① 課題解決型1DAYインターンシップ

一般企業4社・美容室4社計8社が参加し、

- ・午前：企業、業界、仕事についてレクチャー・若手社員との交流
- ・午後：企業からの課題ワーク、課題検討後の提案プレゼン

##### ② 海外1DAYインターンシップ

- ・ガムのワタベウエディング株式会社（ブライダル業界）と繋ぎ、ガムの海や結婚式場などビジュアルに海外挙式を体験しながらグローバルな視点でブライダルの仕事について学んだ

### ③ 他大学・複数企業合同5DAYSインターンシップ

- ・他大学6校の4年生の学生が参加し、3企業と5日間のインターンシップを実施
- ・事前・事後教育を徹底し、ディプロマポリシーとの関わりの認識・参加の目的の明確化、得た学びを今後に活かす活動計画策定など学ぶ「教育的インターンシップ」を遂行することができた。

上記3つのオンラインインターンシップにより、以下教育的インターンシップとして成果を上げることができた。

- ・進路に向けた様々な可能性を探る
- ・社会人とリモートにより触れることで就活、働くことへのリアリティを体現
- ・事前事後と合わせて、ディプロマポリシーを意識したPDCAサイクルを回すことによる社会人基礎力向上
- ・成功体験、失敗体験を次の活動に活かす

## 4 正課外活動・地域連携等

令和3年度はキャリア支援センターによる正課外活動・地域連携の申請窓口の一本化が進み、課外活動の可視化ができた。新型コロナウイルス蔓延の影響によりオンラインでの実施の割合は高いが、具体的な活動としては、オープンキャンパスやインターンシップの他、課外プロジェクト（美容動画プロジェクトや企業訪問プロジェクト、地域貢献プロジェクトなど）や課外講座（美容オンライントレーニング、学外サロン講習など）や学外イベント（東京オリンピックのヘアメイク、コンソーシアム八王子学生発表など）など、コロナ禍で21もの課外活動の申請があり延べ400名以上の学生が参加した。6割の活動において事前教育が実施された。特に学生の主体的行動力、課題解決力が培われディプロマへの寄与も大きい。

## 5 学生募集

令和4年度入学者獲得のため、オープンキャンパスを在学生在が本学の顔となる企画構成とし全30回開催した。内訳は来校型13回、オンライン型12回、オンライン入試対策講座3回、オンラインキャリア特集2回であった。その他、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWebリスティング広告、SNS等を活用し、美道をベースとした学びの内容を授業紹介動画や学校案内を通じて周知を図り、ブランディングの確立を目指した。令和4年度の入学者数は次のとおりである。

### (1) 本科（令和4年度入学者）

	入学者	入学定員	充足率 (%)
美容総合学科	195 (2)	245	79.6

注：（）内数字は、留学生を示し、内数を表す。

### (2) 専攻科（令和4年度入学者）

	入学者	入学定員	充足率 (%)
芸術専攻	0	40	0

注：（）内数字は、留学生を示し、内数を表す。

### (3) 日本語別科

令和3年度から募集停止

## 6 美道論の構築

教科書の書籍化を完成させた。

## 7 生涯学習等

従来生涯学習として実施していた、地域との連携を含めたハロウィンイベントやプログラム等は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス対応として実行不可となった。

生涯学習講座としては、地域にある大学コンソーシアムに参画し、八王子市主催の「いちよう塾」において、建学の精神にある美道を軸に「美齡講座」を開講した。提供講座として合計16講座を担当し、市民246人の受講生が参加した。

今後の課題であるリカレントプログラムとして、「履修証明プログラムに関する規程」は整備済であるが、具体的な活動は行えなかった。

## 8 防災・危機管理

令和3年度は、BCP対策基準表を纏めた。

また、令和4年度から全面的に対面授業とする計画の下、「面接授業実施に際しての新型コロナウイルス感染防止に関するグラドルール」の改定も行った。ルールを徹底するため保護者説明会を実施し、保護者の理解と協力を求めた。

防災訓練に関しては、新型コロナウイルス対応で学生全員が登校して実施することは難しく、オンライン参加を含めて緊急地震速報に対応する避難訓練を実施した。次年度以降、コロナ禍の収束度合いに応じて全学対面での訓練を実施したい。

## 9 外部資金の獲得

高等教育を担う本学は、学生への教育は当然として、研究活動への注力も大きな任務である。財務的な制約がある環境下、外部からの研究資金獲得は非常に重要である。

令和3年度の科学研究獲得は研究代表者1件で直接研究費¥700,000円、間接研究費¥210,000円、分担者で直接研究費¥100,000円、間接研究費¥30,000円であった。引き続き科学研究費獲得に向けて、教員への支援を継続する。

健全な運営のため体質改善を含めた改革をさらに進めること、適正な学生確保に努めること、教育の質的転換を進め、私立大学等改革総合支援事業等の補助金など外部資金の獲得を進めることが課題である。

## 《山野美容専門学校》

### 1. 学生数

昨年と同様に新型コロナウイルスの感染が続く中で、日本国内でもトップクラスの感染予防対策を施し、前期と同様に、オンライン授業と対面授業を組み合わせた、ハイブリッド型の授業を展開した。さらに、このような厳しい状況下だからこそジェーン校長の提唱する4Cを実践すべく、徐々にイベントも復活させて、学生の満足度の向上に努めた。

一方、退学率が10.8%と、減少傾向にあった昨年を約3%上回る結果となった。特に1年生の退学が全体の75%を占めているのは非常に大きな課題である。その原因として注視すべきは、①進路変更(35%)、②体調不良・精神疾患(25%)の2点であった。まず前者については、1年の内に美容の楽しさや職業としての意義(社会的必要性)、さらに将来の可能性の拡がりを教え、体験さ

せることが重要と考える。このために、現状のカリキュラムの変更も必要となる。また、後者については、入試面接時の症状の把握、入学後は、ダッシュボードによる出欠席の管理はもちろん、担任教員、保健師、カウンセラー、保護者間の情報共有を更に密にして、早期の発見と対応をすることが更に求められている。

課程		入学者数 4月在籍者数	退学、転出 除籍者数	卒業延期 留年者数	卒業 進級者数
専門課程	71期以前	17名	10名	1名	6名
	72期	446名 (復学1名含む)	38名	8名	395名 (他、休学5名)
	73期	488名 (復学5名含む)	55名	0名	412名 (他、休学21名)
高等課程	124期以前	8名	5名	0名	3名
	125期	8名	0名	1名	7名
	126期	16名	1名	0名	15名
通信課程		入学280名 在籍684名	69名	—	卒業194名 進級579名

#### 退学率推移、学年別内訳（専門課程）

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
退学率	14.2%	9.9%	7.7%	10.8%
学年内訳	1年106人	1年74人	1年61人	1年78人
	2年57人	2年32人	2年20人	2年25人

## 2. 入学者数

2022年度の専門課程の入学者数は、前年度比16名の減少となった。東京都を除く首都圏3県の入学者数は、コロナ禍にあっても積極的な対面型のOC等を展開したことにより41名増加したが、東京都内が13名、首都圏以外が44名減少したことが全体の減少の大きな原因となった。東京都内は10年以上前から伸び悩んでおり、地方に関しては、昨年と同様に新型コロナの影響も考えられるが、2016年度以降、一貫して減少しており、その減少幅は170名近くに及んでいる。原因としては親の所得の伸び悩みや、地方の美容学校が都内のサロンと連帯を強化し、授業内容や就職面で東京の美容学校と比べても不利にならないといった点も考えられる。しかし、定員を満たすためには、改めて知名度や認知度を上げるための方策とともに、東京都内および地方への対策を更に戦略・戦術面で強化する必要がある。

もう一方の柱となる通信課程については、春期・夏期合わせて安定して300名前後の学生を確保できているが、近年の通信課程への見方・評価の変化、リカレント教育の推進等を考慮すると更に多くの学生を集められる可能性が高い。通信制高校との提携はもちろん、ファッション系やデザイン系、そして福祉系等の大学生や短大生のダブルスクール、社会人の募集にも更に注力しなければならない。同時に、国家試験の合格率を上げるための授業内容の改革が不可欠である。

課程	ガイダンス回数	OC回数	来校者数	2022年度 出願者数	2022年度 入学者数
専門課程	420回	43回	2,759人 (オンライン 含む)	490名	467名
高等課程	校内：393回			—	—
通信課程	会場：27回			315名	305名

※通信課程入学者は、2021年10月・2022年4月入学者計とする。

#### 入学者数推移

課程/年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
専門課程	599名	548名	574名	494名	483名
高等課程	28名	26名	28名	14名	15名
通信課程	299名	283名	300名	333名	280名

※同一課程内の復学者を除く

#### 地域別入学者数推移

地域 / 年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
東京都内	82名	130名	105名	131名	111名	124名	111名
首都圏（東京以外）	257名	210名	208名	230名	189名	189名	230名
首都圏以外	294名	259名	235名	213名	197名	170名	126名

### 3. 国家試験合格率

専門課程の国家試験合格率は春期実施分では全国平均 95.4% に対して 98.2%、前年度比で 6 ポイント以上の増加となり、しかも学科試験では 100% の合格率を達成した（実技の不合格者は 7 名）。これは、前年度と同様、ジェーン校長以下の全教職員が全学生合格を共通の目標とし、実技、学科ともに早い時期から習熟度に合わせたクラス分けを行ったこと。また、成績下位の学生に対して集中的に指導した成果といえる。特に学科では生山先生の作成した「まとめ（≒受験参考書）」を活用して、効率的に授業を行ったことも、この快挙に繋がったものと考ええる。

ただし、学科の担当教員によれば、今回の国家試験問題は例年になく平易であったとの指摘もある。試験の難易度によらず合格を勝ち取るために、科目ごとに担当教員が話し合い、授業のやり方を工夫すると同時に、生山先生のご協力も仰ぎながら常に「まとめ」の精度を上げることが重要と考える。

課程	受験者数	学科合格率	実地合格率	合格率全体
専門課程	393名	100%	98.2%	98.2%
高等課程	7名	100%	100%	
通信課程	87名	96.5%	83.4%	81.6%

#### 国家試験合格率推移

課程	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
専門課程	94.8%	93.9%	90.2%	92.2%	98.2%
全国平均	91.1%	91.3%	90.0%	90.1%	95.4%

※新卒、春期のみ

#### 4. 卒業後の進路

昨年のようなコロナ禍の影響が懸念されたが、大手を始め多くの企業の採用意欲は高く、ほぼ例年通りのスケジュールとなり、今年度も100%の内定率を獲得することができた。また、第一希望のサロン等に内定した学生は66%と、昨年(61%)を上回る結果となった。これは、全学生の就職活動状況をデータ化し、担任教員と個別学生の情報共有を図りながら個別の指導を強化し、ZOOMなどのオンラインによるキャリア授業や個別相談、また初のオンライン合同説明会を開催するなど、積極的に就職指導を推進した結果と考える。

尚、今年度も人気の高いサロンへの就職が決められたのは、卒業生との積極的な交流と、内定者ガイダンスなどを学内で開催した成果であり、山野の卒業生の幅広いネットワークが、就職活動に大きな支援となっていることは間違いない。但し、これまでと比べて有名サロンへの就職を志望する学生は減少傾向にあることは興味深い。個別相談の際に学生一人ひとりの性格や特性を考えた指導を行っていることも含めて色々な要因が考えられるが、身の丈に合った就職をすることで、末永く美容業界で堅実に活躍してくれるのであれば良い選択といえよう。

今後の課題としては、1年時に本格的なキャリア教育を実施し、学生の個別の適正を見極めた上で、就職先サロンとのマッチングを図り、懸案されている離職率の抑制に結び付けると同時に、転職希望者(OB・OG)に対するサポートを拡充することも重要な課題だと考える。

#### 《山野日本語学校》

##### 1. 学校の概要

###### (1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

###### (2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	8人	0	20人	▲4人
職員	4人	0	1人	0人

###### (3) 生徒数

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	3人	3%
大学進学準備教育1年半コース	95人	86%
日本語一般1年コース	5人	5%
計	103人	33%

###### (4) 生徒数(地域別、下段は昨年)

中国	ベトナム		他	計
81%	8%		11%	100%



## 2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置している。

日本語能力試験の状況（ ）内は全国平均

N1	79%	(39%)
N2	53%	(44%)
N3	63%	(48%)

進学状況（ ）カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
12人(17)	19人(35)	0人(5)	37人(91)

### ※ 主な進学先

大学院：埼玉大学、横浜国立大学、北海道大学、宇都宮大学、横浜市立大学、慶応義塾大学、青山学院大学、杏林大学、京都精華大学、京都情報大学院大学、洗足学園音楽大学、文化ファッション大学院大学

大 学：日本大学、学習院大学、東洋大学、中央大学、立命館大学、国士館大学、拓殖大学、武蔵野大学、創価大学、神奈川大学、東亜大学、日本経済大学、東京福祉大学、京都精華大学、山梨英和大学、札幌国際大学、聖心女子大学、国際ファッション専門職大学

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校と積極的に交流を行った。
- (2) 「日本語能力試験合格率50%を目指すプログラム」の2年目として、更なる結果が出た。
- (3) コロナ禍における入国者の大幅な減少により在学学生数が大きく減少した

# 学校法人の事務組織

令和3年5月1日現在

